

# 個が輝き共に生きる夢のある学校

～学びを生活に活かす子の育成～

北区立赤羽小学校

- 住所：東京都北区赤羽1-24-6 ●連絡先：03-3901-8510
- 学校長：本間 正江 ●担当者：菱沼 節子
- 学校規模：児童数 508名

活動の種類	活動の単位	活動期間	教育課程上の主な位置づけ
奉仕、健康・安全、環境	全校	通年	全教育活動

## 活動のねらい

「学んだことを生活に活かす、生活の中に学ぶ」ことを是とし、「学びの日常化」をキーワードに、学習と日々の生活を結びつける視点を養い、個の尊重と共生を目指す教育活動を推進している。

青少年赤十字のねらいである実践活動を通して、自主的で自立した生活態度を養うために、「気づき」「考え」「実行する」という態度目標は、本校のすべての教育活動のねらいと重なるものである。

JRCにつながる活動を通して、日々の取り組みの意義をより深く考え、自ら活動していく力を身に付けていく。

## 具体的な活動内容

### 1. 加盟に当たっての意義とねらいの確認

青少年赤十字の目的や実践目標・態度目標を知り、現行の教育活動を活かしつつ、各活動の意義をより深めていくことを全教職員で確認した。

### 2. JRC加盟登録式の実施

JRC指導者の方から、アンリー・デュナンに関することや日本赤十字社設立までの経緯、また、青少年赤十字に関することを全校児童508名が一堂に会して教えていただいた。さらに具体的な活動内容などを地域に根ざして活動している方からも伺った。

青少年赤十字の旗に校名を入れていただいたものやJRCバッジをいただき、さらに赤十字発祥の地、ソルフェリーノの丘由来の「イトスギ」の苗も大きな鉢に植え替え、加盟の認識を深めた。

6年生代表の3名は、お話を伺ってその場で謝辞を考えたと、JRCの目指すところをとらえた内容であった。



JRCについて真剣に学ぶ

### 3. 様々な奉仕活動

#### (1) 「東日本大震災からの復興」への継続的なかわり

2011年3月11日は、児童の記憶にも生々しくあることであり、児童が自分たちでできることとして考えたことが、現地でも、特に被害の大きかった学校への直接的な支援であった。

以来、毎年継続的に校内や街頭で募金を呼びかけ、集まったものは、仙台市の小学校の銀行口座に直接振り込んでいる。

該当校では、児童の教材や校外学習など、私費負担となる費用の一部に、活用してくれている。

また、最大の支援は「忘れないこと」ととらえ、その一環として募金活動を位置づけている。

#### (2) ユニセフ集会と募金活動

代表委員会の児童が中心となり、清潔な水や医薬品等の不足により、多くの幼い命が危険にさらされていることなどを、全校集会で劇化して伝達。それを踏まえた校内での募金活動を継続して実施している。

また、日本の生活のありがたさを感じるとともに、自分たちの生活の無駄にも目を向け、暮らし方の改善にもつなげている。

#### (3) 親子地域清掃

毎年夏休みの始まりには、親子での清掃活動を地域の商店街を中心に実施している。これは、日頃から地域の方々

が見守ってくださっていることへの感謝として、また、親子での共同作業の場として、さらには、長い休みへの入り口で、生活リズムを崩すことなく過ごすことの大切さを確認する場ともなっている。



方面別に分かれて地域清掃に出発

#### (4) 落ち葉掃き

本校は、校庭の周囲に落葉樹があり、晩秋には落ち葉の量が大変多い。特に銀杏の葉は、美しいかがやきのある反面、ぬれると滑って危ない。そこで、毎年、環境整備栽培委員会が中心となり、有志による早朝の落ち葉掃きが実施される。

また、桜の葉などは、堆肥として活用するなど、環境に配慮している。



毎日、何袋も集まる落ち葉

#### (5) 6年生、卒業前の自主的清掃活動

6年生が卒業前に学校への感謝の気持ちを表す活動が伝統となっている。活動内容は、毎年、6年生が話し合っで決めているが、校舎内外の清掃活動がほぼ恒例となっている。伝統を惰性で受け止めず、主体的な姿勢で実施している姿である。

#### (6) 古紙等の資源回収とリサイクル

「無から有を生み出す」活動として、毎週木曜日に新聞紙や段ボールなどを自宅から持ってくる活動を継続している。

北区が1kgあたり6円として換金してくれるシステム

を活かし、校内の緑化推進活動資金として活用している。中心の活動メンバーは、緑化推進実行委員会である。

#### (7) エコキャップの回収

エコキャップの回収が、発展途上国等のワクチンの購入支援につながることを知り、児童の話し合いによって3年前より開始。代表委員会が、集まったキャップを洗って乾かし、回収業者に委託をしてエコキャップ推進協会に届けられている。

### 4. 健康・安全にかかわる活動

#### (1) 防災教育への取り組み

防災の中でも、現在、30年以内に起きる可能性が70%と言われている首都直下型大地震を念頭に置き、地震への備えを中心として実施している。

##### ① ショート訓練

地震は、いつどのような場面で起こるかわからない。常に机や椅子など、身を守るものがあるとは限らず、校庭も中央に集まるゆとりがあるとは限らない。

そこで、月例の一斉に集まる避難訓練とは別に、様々な時間設定で緊急地震速報のチャイムを鳴らし、教師の指示なしで児童が自主的に判断し、身を守る方法について考え、行動する訓練を行っている。まずは、自分自身で自分の命を守る。人の命を助けるためにも、まずは、自分が助かることが優先であると「津波てんでんこ」に学んだことを活かしている。

##### ② 地震学者から直接学ぶ

慶應義塾大学准教授 大木聖子先生に、学校としても、また近隣同地域を単位とした小中学校による北区サブファミリー校としても、直接話を伺い、地震への備えを進めている。

地震のメカニズムや揺れへの対策などを伺い、自分たちはどのように身を守り、その後はどのように動けばよいのかを話し合ったり、考えを深めたりしながら、行動化している。

その中で、「落ちてこない・移動してこない・倒れてこない」ように家具を固定したり、3つの「ない」場所に身を置くことや頭を守る「ダンゴムシのポーズ」などを学んだ。

##### ③ 地域との合同防災教育授業日の実施

防災は、地域の連携と助け合いが必要であり、そのかわりは一朝夕になるものではない。また、万が一の発災後は、学校が避難所となる。

そこで、地域の自治会や商店街に呼びかけ、さらに消防署・消防団・区の防災課・北区赤十字奉仕団の皆様のお借りして、安全教育の一環である防災授業と防災体験を一体化させた活動を4年前から実施している。

日本赤十字社の皆様には、児童の救護体験として三角巾を使った止血法や骨折の疑いへの対処法などを教えていただいた。

その他、AEDの使い方のほか、起震車、救助袋、煙ハウス、消火器、バケツリレー、D1ポンプ操作などの体験活動を学年別に行い、地域の方々とも触れ合った。



日本赤十字社の方に教えていただいた止血法を実施  
消防署員や消防団の方にもサポートをしていただいた

## (2) 薬物乱用防止教室の開催

毎年、警察の方やライオンズクラブの方から薬物乱用防止の大切さについて高学年が学んでいる。

命を大切にすること、健康な身体を維持していくことの必要性、薬物は心までも蝕んでしまうことなどを学んでいる。

## (3) 保健指導・給食指導を通して

### ①食育

「食」は命の教育としてとらえ、栄養教諭、養護教諭と担任が連携をし、一単位時間の授業のほか、ランチルーム利用時や身体測定時の前後に指導をしている。

その際に、海外における食糧事情等について意図的に触れ、国際理解への一助ともしている。



グリーンピースのさやむき  
全校分のグリーンピースのさやを観察しながら  
むくことで豆への関心を高める

### ②保健学習

保健学習の時間を通して、心身共に自他の尊重が大切であることに気付かせるほか、道徳の時間とも連動させて考えるよう、年間指導計画時に教科等のつながりを意図的・計画的に組んでいくようにしている。

自他の尊重は、「気づき、考え、実行する」過程にお

いて、お互いの命と心を大切にすることが全ての考えの基本となることに通じていくととらえている。

## 5. 環境教育

### (1) 緑化推進活動

体育館入り口近く、テニスコート一面ほどの敷地を利用し、これまで4年間をかけてビオトープや芝生の広場などを児童・保護者が中心となり、手作りで進めてきた。この間、北区のエコリーダーの方々やボランティアから専門的な知識や技を伝えていただいた。

その中で、児童は自ずと生命尊重に気付き、また、自分たちの構想が実現していく過程で主体的に物事にかかわっていく楽しさを身に付けてきている。

### (2) セミの羽化観察会などの実施

北区エコリーダーの方たちが説明をしてくださるセミの羽化やカエルの産卵のようすなどの観察会を夜間の校庭で実施している。

生命の神秘や自然への畏敬の念をもつことなど、得るところが大きい。



セミの羽化に児童も保護者も目を見張る

### (3) 環境展への参加

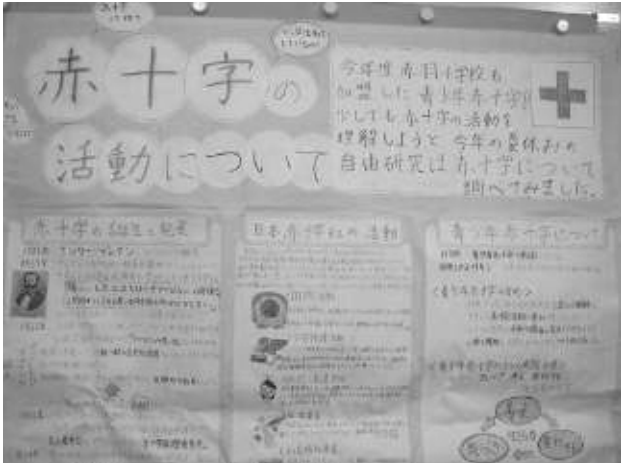
今年度は、北区環境展を本校を会場として開催し、全学年が関係団体による環境学習を実施した。また、これまでの取り組みを全学年がパネル展示し、6年生は、環境にかかわる学習内容の振り返りや、緑化推進の進捗状況の発表、さらに環境維持や改善をテーマにした話し合いのようすを公開するなど、自分たちの「気づき、考え、実行」してきた様子を参会者に伝えた。

## 6. JRCリーダーシップトレーニングセンターへの参加

JRC加入初年度の今年、5年生2名が参加させていただいた。その報告によると、初めは乗り気ではなかったが、参加をして、「自分たちで考え、注意深く行動する」というトレセンの精神に大変感動をし、様々な人と触れ合うことで、自分のこれからの生き方への考え方を変えるほど、よい経験になったとある。

また、前後して街頭で紛争国への支援への呼びかけに出会い、その方と話すことで、より一層世界への視点が広がったことが、感想から伝わってきた。

参加した児童にとって、トレセンでの学びが、精神的な成長を大きく促すことにつながった。



日本赤十字社について、模造紙1枚にまとめた内容の一部

### 7. 地域の歴史を知る

校区である赤羽の地域有志の方により、60年以上前の16ミリフィルムなどをDVDとして作成し直した地域に関する映像を4年生以上の児童で試写会を実施。

地域への愛着や帰属意識を高めるとともに、先人の戦後復興に対する思いなどを学ぶ機会ともなった。

### 8. 沖縄県平和祈念資料館学芸員に学ぶ

沖縄県の現地学芸員の方から、沖縄戦のようすなどを通し、平和を守る大切さや命こそ宝であることを学んだ。

また、当時、日系二世として米軍に従事し、日本人に投降を呼びかけた方が「戦時中、一発の銃を撃つことも、人を殺すこともしなかったことが自分の誇り」という貴重な証言も紹介され、不戦の大切さを改めて心に刻んだ。

## 活動のポイント

今年度は7月7日にJRC加盟登録式を実施した加盟初年度である。とはいえ、冒頭で記したように、これまで本校が取り組んできた教育活動の中でも、特に健全な心身の成長につながる内容とJRCの趣旨は一致することから、より各活動の意義を深くとらえ、主体的な取り組みとして実施することができた。

来年度以降に向け、今年度の実践を基に、JRC活動の位置づけをより明確にし、取り組みの充実も一層確かなものとしていく見通しである。

## 活動の成果

トレセン参加児童のまとめた模造紙大の報告は、学校保存として寄贈してもらうこととなった。記念すべきJRC活動第一歩の先輩の受け止めが、後輩に伝わっていく一助になるものと考え、誰もが目にしやすい場所に掲示をしている。

児童は本来、誰かの役に立ちたいという思いをもっている。それは人が人のかかわりの中で生きていく上で素直な気持ちであろう。

それに気付き、自らその場を見つけ、考え行動していくことで、よりそのかかわりが深まり、人の役に立つことの喜び

が自らの喜びとなって行くであろう。

その視点を、JRC加盟登録式でのお話は、裏付けてくださり、児童の心をひきつける内容となった。

まずは、その青少年赤十字の目指すところと児童との出会いが大きな成果であり、その趣旨を踏まえた様々な活動が粛々に行われた。その児童自らの実績を大切に、来年度も歩んでいきたいと願う。



1年生を迎える会 2年生以上のまなざしが温かい



地域でのマーチングパレード 地域の温かさを感じる